

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500427		
法人名	社会福祉法人 サンビジョン		
事業所名	ジョイフル各務原		
所在地	岐阜県各務原市小伊木町3丁目170-1		
自己評価作成日	令和2年9月5日	評価結果市町村受理日	令和2年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190500427-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ベランダから臨む犬山城や木曾川、リビング目の伊木山など四季折々の景観があり、自然に恵まれた開放感ある環境の中、併設施設である特養やデイサービスなどと連携しながら、地域社会との継続的な関係を築いています。今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、外出やボランティアの方達による行事、施設内の行事がほぼ中止となっているが、グループホーム内で行える行事として、スイカ割りや、たこ焼きパーティ等、楽しい時間を提供できるように各職員が考え、提供を行えるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は各務原市の東部にあり、木曾川近くの自然豊かな環境の中、犬山城も眺められる地である。特別養護老人ホームを始め、デイサービス、ショートステイ等がある複合施設であり、合同行事や情報共有、防災・防犯等においても法人内で連携体制にある。利用者は職員と共に、地域清掃や小学校の運動会等に参加して、地域との継続的な関係を築いている。現在は、新型コロナの影響を受け、様々な制限があり、中止を余儀なくされているが、利用者のしたいことやできることを尊重し、音楽教室や陶芸教室を行うなど、利用者の意見や要望を丁寧に拾い上げ、その人らしい生き生きとした生活が送れるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者が中重度の要介護状態となっても、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続できるように理念を共有し、毎日の支援を行っている。事業所での憲章もあり、年度毎に見直しを行っている。	理念は併設施設本館に掲示し、職員手帳にも記載して共有している。また、毎年、職員が意見を出し合い、理念を基に事業所独自の憲章を決めている。本年度は「笑顔」「チームワーク」「思いやり」を掲げ、意識を高めながら理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在では新型コロナウイルスの影響もあり、十分な活動ができていないが、例年は日々の買物や地域行事(清掃、お花見)を通して地域との繋がりを意識している。	年2回の地域清掃や、花見、運動会等、利用者職員が参加し、地域住民や小学校との交流を継続している。また、地元自治会では役員交代時に、これらの引き継ぎがなされている。現在は、新型コロナウイルス感染予防対策として、様々な活動を休止しているが、収束後は再開を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの利用や納涼祭、秋祭りといった行事を行い、地域に開かれた事業所である事を示しながら理解を得られるようにしているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1度開催し、事業所の取り組み状況や満足度調査の結果等を報告している。参加者から頂いた助言は共有し、サービス向上に繋がるよう活かしている。	利用者、家族、区長、民生委員、行政担当者等が参加して、4ヶ月に1回運営推進会議を開催し、運営状況や取り組みを報告、意見交換を行っていた。現在は感染予防対策として、書面での会議としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	併設事業所である地域包括支援センターとも情報交換しながら、随時相談できる関係を築いている。資料提出や介護保険更新手続きの際には、可能な限り利用者を同伴して市の窓口へ出向いている。	書類提出や諸手続きの際には、できる限り利用者と共に窓口に出向き、顔の見える関係作りに努めている。現在は、電話やメールでの対応が中心であるが、情報交換や相談等で協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は法人として、行わない指針を掲げている。二月に一度、身体拘束に関しての委員会も開催しており、グレーゾーンの認識も含め、利用者様の安全に努め、身体拘束を行わないケアを実践している。	虐待防止委員会を定期に開催し、アンガーマネジメントについても学んでいる。議事録の回覧を行い全職員に周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。法人全体の必須取り組み目標でもあり、転倒等のリスクがある場合も、多職種で連携し、拘束をしないでリスクを回避する方法を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアの勉強会の開催や不適切ケアのチェック表を使用し、不適切ケアとなる点がないか確認をしている。また、グレーゾーンの部分にも注意し、特にスピーチロックを意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して制度に関する理解を深めながら、併設事業所と協力し、利用者が安心して施設を利用して頂けるように整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等に限らず、利用者からの不安や疑問には都度丁寧に説明し、理解を得られるようにしている。利用者の状態変化に応じて関係機関と調整を図り、迅速に対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会と満足度調査を実施し、ご家族のニーズを伺う機会を設けている。アンケートは公表し、意見内容は職員間で共有し、検討を行いご家族との信頼関係を築けるよう努めている。今年度は新型コロナウイルスの影響により、家族会は中止としている。	例年は年に2回家族会とアンケートを実施して、結果を公表し、サービス向上に活かしている。また、訪問時などに家族から聞き取った内容も記録して、職員間で共有し、信頼関係作りに努めている。今年度は新型コロナの影響から、家族会は開催していないが、アンケート結果は郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回職員アンケートを実施している。職場環境に関して可能な限り改善に努めている。また、個別でも随時面談を行い、意見等を聞く環境を作れるようにしている。	職員は、アンケートや個別面談を通して意見や要望を言いやすい環境にあり、管理者は、それらを業務改善やモチベーションの維持向上につなげている。また、管理者やハウスマネージャーも現場に入り、日常の業務で出た意見を記録して、サービスの向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革の部分もあるため、計画的に有給休暇を取得できるようにしている。託児所も併設されているため、女性も働きやすい環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標設定シートを元に、勉強会や研修を通してスキルアップに繋がるように努めている。資格取得に対してもバックアップできる環境も整備されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の資質向上のため、事業所以外での勉強会や研修にも参加し、相乗効果となるようにネットワークづくりを行っている。研修の受け入れも、積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が落ち着ける雰囲気、空間作りを意識し、話をしやすい環境づくりに努めている。伺った内容は職員間で共有し、統一した対応を行い、馴染みの関係となれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や面会時に都度家族の不安要素や要望を伺っている。また、日頃から細かな情報等もお伝えし、話しやすい関係づくりとなるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を把握し、本人様やご家族の話をもとに情報共有し、検討する中で必要な支援を考えている。また、ニーズを見極めながら適切な対応を行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事を行ったり、その方のできる事を行っていただくようにしたり、自尊心を大切に、本人らしさや生きがいを持って、楽しく笑って過ごせるように、職員間で情報共有をしながらケアを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活の様子をこまめに伝えるようにし、家族との共感を大切にしている。今までの利用者と家族の関係を考慮しながら、思いを汲み取っていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とも協力しながら、馴染みの美容院に行かれたり、地域行事に参加をし、馴染みの方との交流をしていただくよう支援に努めているが一部の方のみとなっているのが現状である。	買い物や地域行事への参加は、出来る限り全員参加できるよう支援に努めているが、利用者の体調や状態によっては難しいことも多い。現在は、新型コロナ感染予防のため、面会や外出も休止しており、利用者は、音楽教室や地元の学生の来訪を待ち望んでいる。コロナ収束後には、それらの再開を目指している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や性格を考慮し、人間関係が円滑にいくよう食事席や入浴のタイミングに配慮している。個人の生活ペースを大切に、利用者同士の関係性を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は併設している特養に移られた方が多く、行事等で顔を合わせる機会があるため、対話等を通じて自然な関係が保たれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や本人のつぶやき、行動の理由等を考えることで、本人様の思いや気持ちを汲み取れるように努めている。場合によってはご家族の協力も仰ぎながら行っている。	日常生活で利用者が何気なく発した言葉を「つぶやき」として拾い上げ、運営推進会議でも報告している。想定外の行動の原因を推測し、その人の思いや意向の把握に努め、職員間で共有している。現在は、ほとんどの利用者とは意志疎通が図れているが、表情などからも思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族との会話や事前に記入していただく資料等を用い情報把握に努めている。得た情報をもとに今までの生活をできる限り継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴等を考慮してできる限りの生活スタイルを送っていただいている。その中で毎日の状態観察は常に行っており、普段と違う事があれば職員間で情報共有を行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が自立した日常生活を営めるように、また本人にとって心地良い生活が送れるように職員で検討している。アセスメントから現状に即した支援を見出し、介護計画に反映させている。	6ヶ月毎にケア・カンファレンスを開き、介護計画を見直している。居室担当がアセスメントを行い、本人や家族の意見を聞いている。必要に応じて医療関係者からも助言を得て、職員全体で話し合い、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状態変化や、普段と違う行動等あれば、随時職員間で相談を行い、対応を行えるようにし、効果の高いものは介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族のニーズに合わせて相談、検討を行い、できる限り提供を行えるように支援している。また、必要に応じて併設している事業所にも協力を依頼し、対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の趣味や生活暦を考慮して、町内行事や地域清掃への参加など、事業所のみならず活動の場を広げて頂くことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの方にかかりつけ医があり、家族が受診を担っているが、現在では往診診療となっている方がほとんどではある。往診内容は適宜ご家族に報告し、共有できるようにしている。	入居時に、かかりつけ医について説明し、本人・家族の理解を得ている。ほとんどの人が今までのかかりつけ医を選択し、定期的な往診を受け、結果と情報を共有している。訪問歯科もあるが、診療科によっては家族が受診に付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐していないが、介護士で判断できない場合の時には、併設している特養の看護師に連絡し、対応を行えるようにしている。また、場合によってはかかりつけ医に連絡し情報提供を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	相談員やハウスマネージャーが中心となり、医療機関との調整を図っている。長期入院となる場合も、地域事業所と連携を図りながら退院時の受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人のグループホームでは重度化させず、終末期の対応は行っていないことを入居前に説明し、理解を得た上でサービスを利用して頂いている。日々の状態を観察している中で、普段と変わっていることがあれば、こまめに家族と情報を共有し、利用者に適した環境で生活できるように支援している。	入居前に終末期の看取り対応を行っていないことを説明し、了解を得ている。職員は、日々、利用者の状態を注意深く観察しながら、家族と情報を共有し、状況に応じて関係者で話し合い、方針を決定している。併設の特養入所の希望も事前に把握するなど、できる限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応や事故に関するマニュアルや勉強会があり、日頃から意識を高めている。事故発生記録を会議で見直し、原因を解析していくことによって、自己予防となるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画的に防災・防犯訓練を行い、非常事態に対する意識付けを行っている。訓練を通して利用者の行動パターンを把握し、ケースに応じた手段を発揮できるように意見交換を重ねている。	併設施設との合同訓練、夜間想定訓練等、防災・防犯訓練を年に4回実施している。マニュアルが整備され、担当者名、避難場所への所要時間、非常食のメニューも記されている。水や食料の備蓄、自家用発電機器も備えている。併設施設との適切な連携体制も構築中である。	事業所は様々な事態を想定し、防災・防犯訓練を重ねている。今後も併設施設との連携体制の構築と共に、夜間災害時の利用者の安全確保の訓練の強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導や身だしなみに関する声かけについては他者の目や耳に触れぬよう、自尊心に配慮している。権利擁護の勉強会もあり、不適切ケアとならないよう声かけには特に注意している。	勉強会や法人のエリア研修会等を行い、利用者一人ひとりを尊重したケアに取り組んでいる。管理者も適切なケアについて情報発信を行い、職員は法人のチェックリストによる自己評価を行っている。声かけ時やドアの開閉時の配慮等、利用者の誇りを損ねないケアを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替え衣類や献立に関する希望など、自己決定し易い場面づくりを心がけている。会話の中で利用者の思いを拾い上げ、内に秘めた思いもすくい上げることができるように情報共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを把握し、介護計画に落とし込みながら、できる限り今までの生活スタイルを継続して頂くことができるように支援している。例) アクティビティの参加の有無の確認等を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容を利用したり、起床時、入浴後等に化粧水等で肌のケアを行っている。また、定期的に髭剃りも行ってもらい、身だしなみには注意するよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを把握し、楽しみとなるように献立を立てるようにしている。つぶやきから食べたい食事を拾いあげ、提供できるようにもしている。一人ひとりに合わせた準備や片づけの手伝いを依頼しており、協力していただけるように努めている。	食事は旬の食材を用いて三食手作りし、利用者の好みも取り入れながら、行事食も充実させるなど、食べる楽しみにつなげている。利用者は状態に応じて出来る範囲内で、買い物や調理、配膳等に関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの特性(嗜好やペース)を把握し、提供している。状態に応じて本人や家族に相談しながら、体重が増加傾向の方は盛り付け量に配慮したり、食欲減退の方はバナナやゼリーなどの捕食を用意して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じ、声かけや見守り、介助をしている。義歯は週に2回消毒を行っている。また、口腔内の状況に応じて、必要な方は歯科往診を行っている方も見える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄をすることができるように支援している。また、転倒リスクがある方はスリッパの向きに注意するなど、個々に応じた対応も行っている。	利用者の多くが紙パンツやパッドを使用しているが、個々の排泄パターンを把握し、できる限りトイレでの排泄や自立につなげるよう支援に取り組んでいる。また、トイレでの転倒予防の為、見守りを行いながら、夜間も一人ひとりの状況に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きが活発になるような食材を献立に取り入れ、日常的な運動時間も設けている。水分量にも目を向け、好みの飲み物など意識的に飲めるように工夫している。排便状態に応じてかかりつけ医に相談し、内服薬での調整も図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夕方からの入浴を基本とし、一人ひとりの希望や拘りに可能な限り応じながら、平等に入浴して頂けるようにタイミングを図っている。利用者同士の関係性にも配慮しながら、心地良く入って頂けるように整えている。	入浴は1日置きとしているが、利用者の体調や意向に応じられるよう毎日準備している。季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯など、入浴を楽しめるよう工夫している。浴室は広く、室温にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者本人や家族の情報をもとに、入居前の生活を踏まえながら電灯の明るさや空調などを考慮し、環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の内容を理解・共有し、服用後の身体の変化を見逃さないようにしている。提供時には服薬マニュアルに沿って提供を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や生け花、調理、縫製など、一人ひとりのやりたい(できる)ことや得意なことを考え、居場所や役割を感じられるような毎日が過ごせるように支援している。現在は外出等が行えない状況でもあるため、室内でできる多様なアクティビティの提供を行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在では新型コロナウイルスの影響もあり、外出行事は行っていない。その代わりにアクティビティ等に多様性を持たせ、気分転換となるように努めている。	従来は、車での買い物や喫茶店へ出掛けたり、花見の行事等も開催していた。現在は、新型コロナウイルス感染予防対策として、外出を自粛し、風船パレーやジグソーパズル、うちの絵付け、塗り絵等、室内でのレクリエーションや運動など、工夫しながら活動している。	現在、外出支援の代替として室内での様々な活動を工夫して行っている。今後も状況に応じて、利用者の体力保持や安全な外出、地域との関係継続等について、新たな支援のあり方を探る姿勢にあり、前向きな支援に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時には小遣いの取り扱いについて利用者に説明を行い、同意を得た上で一人ひとりの財布を金庫で保管し、希望された時に使用できるように支援している。小遣い帳(記録)をもとに、毎月の収支報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人の希望に応じて、電話や手紙の郵送手配を行っている。また、ご家族から電話が来ることもあり、その際も居室でお話ができるように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を得られるような花を活けたり、利用者様達に作っていただいた季節の作品等を掲示している。清潔感も保つように努めている。一人ひとりの動線に注意しながら、灯りや音のメリハリにも留意し、利用者が寛いで生活して頂けるように環境を整えている。	居間は広く、車いす使用にもゆとりがあり、清潔が保たれている。利用者の状態に応じて食卓の座席や家具の配置を工夫している。毎週、利用者が花を活け、壁には利用者の作品を飾り、居心地よく過ごせる工夫がある。浴室や洗濯室は、事故防止の為、施錠する事もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格や利用者同士の相性を踏まえ、食事席やソファの配置を考慮している。利用者同士のトラブルにも注意しながら、一人ひとりの居場所を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはカーテン、洗面台、天袋、エアコンが備わっている。それ以外にも、在宅時から使用していた家具や愛用している物、家族との写真などを持ち込んで頂き、本人にとって落ち着いた環境づくりを考えている。	居室は広く、カーテン、エアコン、洗面台、広い天袋が備え付けられている。利用者は、使い慣れた家具や小物を持ち込み、家族の写真を飾って落ち着いた居室作りをしている。千代紙をあしらった表札が、温かい雰囲気を出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部には手すりが設置されており、一人ひとりの特性を踏まえて、安全かつ動き易さを考えて家具を設置している。身体状況に応じて家族に相談しながら、履物の見直しをしている。		